

広告

企画制作/北海道新聞社営業局



大同電設株式会社
代表取締役
織田 正見 氏

大同電設株式会社

■設立/1958(昭和33)年 ■従業員数/約142名
■本社/室蘭市東町2丁目25番11号 TEL. 0143-44-5695
<https://daido-den.co.jp/>

11年間で70名以上が受講。社員の意識と企業風土が変わった

室蘭市を拠点に電気設備工事を中心とした事業を展開し、まもなく創業70年を迎える大同電設。現在は札幌市と苫小牧市、大分市にも事業拠点を有し、国や道の公共工事、日本製鉄や北海道電力をはじめとする民間工事を多数請け負っています。企画から設計・施工・品質管理・メンテナンスまで自社で行うワンストップ体制が最大の強みです。

その一方で長年の課題となっていたのが、職人気質による業務の属人化と中間管理職を中心とした人材不足。個々の技術は高いもののマネジメント経験が少ない定年間の社員が多く、技術の伝承がスムーズに進まない上、せっかく若手社員がスキルを身につけてもすぐに離職してしまうケースが頻発していたそうです。この状況に危機感を抱いた織田正見社長は組織全体の底上げを目指し、2015年より中小企業大学校旭川校の研修を導入。管理者養成講座や女性リーダー養成講座など、11年間で70名以上が受講。中小企業大学校が大同電設向けにオーダーメイドで企画したコンプライアンス研修やマネー研修など、社員の職位に即した多彩な研修も年初から計画的に設定し、毎年100名以上が受講しています。

「社員を送り出すためには業務の社内調整が発生しますし、導入当初は受講する社員も『なんでわざわざ研修なんて』とあまり前向きではありませんでした。ところが実際に受講してみると『社内では学ぶことができない部下の育成法やコミュニケーションの活用法、会社組織を組み立てる上で知っておくべきことなどを認識できた』『自社の強みや課題を客観的に捉え直すことができた』と大好評。また、異業種交流会を通じて20〜30代の

世代交代と技術伝承を見据え、計画的かつ長期的に研修を活用

若手管理職が活躍している他社事例を知り、驚くとも大いに刺激を受けたようです」と織田社長。社内でも研修レポートを通じて学びの意欲が波及し、「自分も受講したい」と手を挙げる社員が続々登場。一人ひとりが問題意識を持って自発的に行動する風土が醸成された上、来年度はついに初の女性執行役員が誕生予定とのこと。10年以上にわたる人材育成の取り組みは、確実に実を結びつつあります。

**社員の若返りと増員にも成功
若い力で100年企業を目指す**

どの業界でも人材不足は共通の課題。大同電設では電気工事未経験者の積極採用にも力を入れています。未経験者には現場研修やメーカー講習を通じて実践的なスキルを身につけさせるとともに、長年の課題だった業務のマニュアル化やノウハウの社内共有にも着手。ここ5〜6年で30代未満の社員比率が約60%と若返りを果たし、目標だった世代交代と技術伝承、そして社員150名体制の実現も見えてきました。「全社員が外部研修を受けられる機会を設けて意識改革を図り、若手社員が意欲的に次世代のリーダーを目指せる環境を整備していきたいですね。今後は管理者や現場代理人の育成、協力会社との連携強化につながる研修プログラムがあれば大いに活用し、より強固な組織運営の構築を図っていきたくと考えています」と織田社長。「2年後に迎える70周年はあくまで通過点。その先の100年企業を目指し、若い世代が主体的に会社を持続・発展させていくことを期待したいですね。そのために、今後も中小企業大学校開催の研修を積極的に活用させていただきたいと思っています」

人と会社を成長させる学びがある

中小企業大学校で
経営革新が加速する

「中小企業大学校旭川校」は、独立行政法人 中小企業基盤整備機構(中小機構)が運営する人材育成機関。経営者や管理者候補に向けた多彩な研修メニューを展開し、北海道の中小企業の人づくりを支えています。同校での学びを生かして課題解決と経営革新に取り組む2つの企業をご紹介します。